

旧徳山藩の神社本殿の造りと装飾に関する研究

中川 明子*¹ 林 (石丸) 千夏*²

A Study on Style and Decorations of Main Shrine Buildings in Old Tokuyama Domain

Akiko NAKAGAWA *¹, Chinatsu HAYASHI-ISHIMARU *²

Abstract

The purpose of this study is to clarify the characteristics of main shrine buildings in old Tokuyama Domain. In 1978, some notable temples and shrines in Yamaguchi Prefecture were investigated to preserve and to protect them. But main shrine buildings built after the early modern times have not yet investigated sufficiently. We investigated and compared with main shrine buildings in Yamaguchi Prefecture and ones in old Tokuyama Domain. The results are as follows; The main shrine buildings in Yamaguchi Prefecture had been becoming decorative. Almost main shrine buildings in old Tokuyama Domain built after 18th century were simple and, ones built in 18 century were decorative. In both areas, Ikkensya-Nagare-Zukuri was most common style, and main shrine buildings in 18th century were decorative.

Key Words : main shrine building, decoration, old Tokuyama Domain, sculpture, Nagare-zukuri

1. はじめに

文化庁と都道府県教育委員会は昭和 52 (1977) 年から平成 2 (1990) 年にかけて、「近世社寺建築緊急調査」を実施したが、山口県下でも昭和 53 (1978) 年、第 1 次調査で 155 棟、第 2 次調査で 82 棟の建築物が対象とされた緊急調査が実施された¹⁾。

山口県内には、神社本庁包括下の神社が 740 社存在すし、この内、当然ながら前述の「近世社寺建築緊急調査」の対象となったものもある一方、大部分については調査対象とはなっておらず、県内の 1 つ 1 つの神社について詳細な調査は、これまでほぼ未実施と言って良い。県下の社殿建築の特徴を明らかにする為には、県下の神社についてより詳細な調査が必要であるが、県内の神社全てを一度に調査することは調査期間的・予算的に困難であるため、本稿では、学校所在地に最も関連の深い地域の一つである、旧徳山藩内の神社建築の本殿について調査し、その特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 旧徳山藩について

『徳山市史』によると、徳山藩の起源は元和 3 年 (1617

年) であるが、幕府の公認を受けたのは寛永 11 年 (1634 年) である。初代、毛利就隆は藩の本拠を下松に置こうとしていたが、山陽街道からも隔たれており、領内諸村との連絡も悪かったため、交通の便の良い野上村へと移転した。街道と海を臨む金剛山のおもとに館邸が構えられ、この地は徳山と称された。最も内陸の須万村では造紙が行われ、農業は、藩全域で米と麦が主に栽培された。鉱工業は奈古村でわずかな銅の産出と、大津島での徳山石の産出が行われた。領土の大部分が瀬戸内海に面し、室津浦、下松浦、櫛ヶ浜浦、福川浦、富海浦では漁業、製塩業も盛んに行われ、俵物、つまりは清国との貿易も行われた²⁾。

3. 調査方法

本研究の調査対象、調査手順は以下のとおりである。

3.1 調査対象

文献調査対象とする神社は、国指定文化財データベース³⁾と『山口県の近世社寺建築-近世社寺緊急調査報告書-』⁴⁾ (以下、山口県の近世社寺建築) に記載されている山口県の神社本殿全てとした。現地調査対象とする神社

*¹ 土木建築工学科

*² 株式会社徳本工務店

は旧徳山藩の領地内にあり、『山口県神社誌』⁹⁾、『山口県の近世社寺建築』に記載されているものとする。

3.2 調査手順

調査手順は次の通りである。

- ① 文献調査対象の神社本殿をリストアップし、所在地、本殿建築時期、本殿様式、身捨斗栱、身捨中備、妻飾、身捨と向拝の繋ぎ材の情報を表に整理し、年代順に並べて山口県の神社本殿の意匠の変化をまとめる。
- ② Google マップのマイマップを活用し、文献調査対象の神社を様式別にプロットする。
- ③ 現地調査対象の神社をリストアップ、所在地、本殿建築時期、本殿様式、祭神の情報を表にまとめ、現地で神社本殿の装飾部材の写真撮影を行う。
- ④ Google マップのマイマップに現地調査対象の神社を様式別にプロットする。
- ⑤ 文献^{9),10)}を参考に、身捨斗栱、身捨中備、妻飾、身捨と向拝の繋ぎ材を分類する。なお、本稿に掲載した旧徳山藩の神社本殿の写真は全て、2017年9月から2018年9月にかけて林（石丸）が撮影したものである。

4. 調査結果

以下、調査結果について記述する。

4.1 国指定文化財データベースおよび『山口県の近世社寺建築』から見る山口県の神社本殿の特徴

文献調査対象の神社本殿は88棟である。表-1は文献調査対象の神社本殿を建築年代順に並べたものである。

図-1に文献調査対象の神社本殿の造りと所在地を示す。『山口県の近世社寺建築』の記述をもとに装飾部材ごとに意匠の変遷を示す。

① 本殿様式

本殿様式は流造が最も多く79棟である。このうち一間社流造のものは21棟(26.6%)であり、すべて18世紀以降のものである。また、入母屋造の本殿6棟のうち、4棟は19世紀以降のものである。

また、一間社流造の本殿21棟のうち3棟は瀬戸内海側に位置しているがその他の神社本殿は日本海側または山口県の内陸部に位置している。入母屋造の本殿6棟は山口県中央から北西部にかけて分布している。

また、宝暦8年(1758)建築の岩戸八幡宮(写真-1)は平面的には三間社流造と変わらないが、身捨と向拝の柱の高さを同じにし、前後の屋根の流れが揃うという点で流造とは異なっている。

② 身捨斗栱

三斗組を用いる神社が多く、出組や二手先、三手先の斗栱は18世紀以降に現れる。

③ 身捨中備

中備に臺股を用いる神社は75棟(87.2%)である。また、間斗束を用いる神社は4棟である。

④ 妻飾

冢叉首か大瓶束とするところが大半である。妻飾を冢叉首とするところは又首梁を虹梁形としないものも含めて全部で36棟あるがその内の32棟(88.9%)が18世紀以前のものである。また、妻飾を大瓶束式とするものは梁を虹梁形としないもの、二重虹梁式のものを含めて33棟あり、全て18世紀以降のものである。これには、出

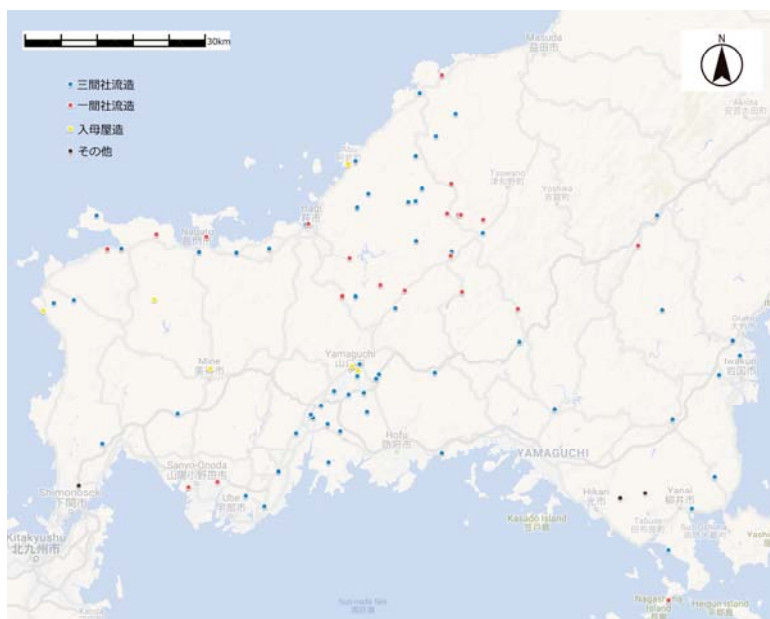


図-1 山口県の近世社寺建築記載神社本殿様式別分布図⁹⁾



写真-1 岩戸八幡宮¹⁰⁾
熊毛, 宝暦8(1758)



写真-2 出雲神社¹¹⁾
徳地, 寛延3(1750)

表-1-1 山口県の神社本殿の意匠的特徴

神社名	年代	藩又は 宰判	規模・様式	屋根	身捨				向拜						
					妻飾	組物	中備	木鼻	繫梁	向拜虹梁	組物	中備	木鼻	手扶	
今八幡宮	室町前期	山口	三間社流造	柿葺	冢叉首	平三斗,連三斗	墓股	—	—	—	—	平三斗,連三斗	墓股	○	×
住吉神社	応安3年(1370)	長府	九間社流造 正面五か所 千鳥破風付	檜皮葺	冢叉首	連三斗	墓股	—	—	—	—	平三斗,連三斗	墓股	—	—
石城神社	文明元年(1469)	熊本	桁行三間 梁間一間 入母屋造 背面二間 切妻造	柿葺	—	平三斗,連三斗	墓股	—	直材	直材	—	三斗	墓股	○	×
八坂神社	永正17年(1520)	山口	三間社流造	檜皮葺	冢叉首	平三斗,連三斗	墓股	—	直材	—	—	三斗,連三斗	—	—	×
平清水八幡宮	室町中期	山口	三間社流造	銅板葺	冢叉首	平三斗,連三斗	—	—	直材	—	—	連三斗	—	—	×
古熊神社	元和4年(1618)	山口	桁行三間 梁間二間 入母屋造	檜皮葺	冢叉首	三斗	×	—	—	—	—	—	—	—	×
松崎八幡宮	寛文元年(1661)	奥阿武	三間社流造	銅板葺	虹梁冢叉首	三斗,連三斗	墓股	○	虹梁	頭貫	—	出三斗,連三斗	墓股	○	×
岩隈八幡宮	元禄4年(1691)	岩国領	三間社流造	鉄板葺	—	平三斗,連三斗	墓股	○	海老虹梁	直材	—	出三斗,連三斗	墓股	○	○
志多里神社	元禄6年(1693)	山口	三間社流造	茅葺形鉄板葺	虹梁大瓶束 (又首棹付)	三斗	墓股	○	直材	直材	—	出三斗	—	—	○
鰐鳴八幡宮	貞享	山口	三間社流造	鉄板葺	虹梁冢叉首	二手先斗拱	墓股	○	海老虹梁	直材	—	出三斗	墓股	○	×
住吉神社	17世紀中	先大津	三間社流造	銅板葺	冢叉首	三斗,連三斗	墓股	○	海老虹梁	虹梁状頭貫	—	出三斗	墓股	○	○
南方八幡宮	18世紀初	小郡	三間社流造	檜皮葺	虹梁冢叉首	三斗	墓股	—	直材	直材	—	出三斗	墓股	○	○
地福八幡宮	宝永2年(1705)	奥阿武	三間社流造	銅板葺	冢叉首	平三斗,連三斗	墓股	○	虹梁	直材	—	平三斗,連三斗	墓股	○	—
瀬田八幡宮	正徳5年(1715)	岩国領	三間社流造	瓦棒鉄板葺	虹梁冢叉首	平三斗,連三斗	—	○	海老虹梁	—	—	—	—	—	—
片保八幡宮	正徳5年(1715)	奥阿武	三間社流造	棧瓦葺	冢叉首	三斗	墓股	—	虹梁	頭貫	—	出三斗	墓股	○	×
須々万八幡宮	正徳6年(1716)	都濃	三間社流造	鉄板葺	虹梁冢叉首	出組	墓股	○	海老虹梁	直材	—	出三斗	墓股	—	○
滝部八幡宮	享保2年(1719)	先大津	三間社流造	鉄板葺	虹梁冢叉首	三斗	墓股	○	海老虹梁	直材	—	出三斗	墓股	—	○
仁壁神社	享保5年(1720)	山口	三間社流造	鉄板葺	冢叉首	平三斗,連三斗	墓股	○	海老虹梁	直材	—	連三斗	—	○	×
湯原山八幡宮	享保5年(1720)	岩国領	三間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束 (又首棹付)	三斗	墓股	○	—	直材	—	出三斗	墓股	○	—
深野八幡宮	享保10年(1725)	山口	三間社流造	鉄板葺	冢叉首	平三斗,連三斗	墓股	○	虹梁	虹梁状頭貫	—	出三斗	墓股	—	×
吉香神社	享保13年(1728)	岩国領	三間社流造 軒唐破風造 正面千鳥破 風	檜皮葺	二重虹梁大 瓶束	二手先斗拱	墓股	○	海老虹梁	—	—	出三斗	—	○	○
菅原神社	享保15年(1730)	奥阿武	一間社流造	銅板葺	虹梁冢叉首	連三斗	墓股	○	海老虹梁	直材	—	連三斗	墓股	○	×
八雲神社	享保17年(1732)	小郡	三間社流造	茅葺形鉄板葺	虹梁大瓶束	出組	撥束 墓股	○	—	—	—	出三斗	墓股	猿鼻	—
祖父神社	享保17年(1732)	徳地	一間社流造	茅葺	—	連三斗	墓股	○	—	直材	—	連三斗	墓股	○	—
當島八幡宮	元文2年(1737)	舟木	一間社流造	銅板葺	虹梁冢叉首	出組	墓股	○	海老虹梁	—	—	—	—	—	—
正八幡宮	元文4年(1739)	小郡	三間社流造	檜皮葺	—	出組	墓股	○	虹梁	直材	—	出三斗	墓股	—	○
北方八幡宮	元文6年(1741)	小郡	三間社流造	檜皮葺	—	出組	墓股	○	虹梁	虹梁状頭貫	—	—	墓股	—	—
築山神社	寛保2年(1742)	山口	桁行三間 梁間二間 入母屋造	鉄板葺	—	二手先斗拱	墓股	○	×	×	×	×	×	×	×
神角神社	延享元年(1744)	奥阿武	一間社流造	鉄板葺	虹梁・束	出三斗	墓股	—	虹梁	虹梁状頭貫	—	出三斗	墓股	○	×
浦井八幡宮	延享3年(1746)	上関	一間社流造	銅板葺	虹梁大瓶束	連三斗	墓股	—	海老虹梁	虹梁状頭貫	—	出三斗	—	—	—
白鳥神社	寛延2年(1749)	上関	三間社流造	銅板葺	虹梁大瓶束	出組	墓股	○	海老虹梁	虹梁	—	平三斗,連三斗	墓股	○	×
出雲神社	寛延3年(1750)	徳地	三間社流造	茅葺形鉄板葺	虹梁大瓶束 (又首棹付)	三斗	墓股	○	海老虹梁	—	—	出三斗	—	—	×
黒山八幡宮	宝暦2年(1752)	小郡	三間社流造	茅葺	二重虹梁太 瓶束	出組	墓股	○	直材	—	—	連三斗	墓股	○	—
河原八幡宮	宝暦2年(1752)	先大津	三間社流造	鉄板葺	虹梁冢叉首	三斗	墓股	—	海老虹梁	直材	—	平三斗,連三斗	×	○	×
貴布禰神社	宝暦7年(1757)	先大津	一間社流造 背面三間	銅板葺	虹梁大瓶束	平三斗,連三斗	墓股	○	海老虹梁	直材	—	平三斗,連三斗	墓股	○	○
嘉年八幡宮	宝暦7年(1757)	奥阿武	一間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束 (又首棹付)	出三斗	墓股	○	虹梁	直材	—	出三斗	—	—	—
岩戸八幡宮	宝暦8年(1758)	熊本	桁行三間 梁間三間 切妻造	鉄板葺	二重虹梁大 瓶束	出組,出三斗	墓股	○	×	×	×	×	×	×	×
大帯姫八幡宮	宝暦14年(1764)	岩国領	三間社流造	銅板葺	—	平三斗,連三斗	墓股	○	虹梁	—	—	連三斗	—	○	—
六所神社	明和元年(1764)	当島	三間社流造	銅板葺	虹梁冢叉首	平三斗,連三斗	墓股	○	海老虹梁	虹梁	—	平三斗,連三斗	墓股	○	○
御堀神社	宝暦	山口	三間社流造	茅葺形鉄板葺	虹梁大瓶束	出組	墓股	○	海老虹梁	虹梁状頭貫	—	出三斗	—	—	×
国津姫神社	安永2年(1773)	徳山	三間社流造	銅板葺	二重虹梁大 瓶束	出組	墓股	○	—	—	—	—	—	—	—
速田神社	安永2年(1773)	岩国領	三間社流造	銅板葺	虹梁冢叉首	平三斗,連三斗	墓股	—	海老虹梁	—	—	—	墓股	—	×
春日神社	安永3年(1774)	当島	三間社流造	鉄板葺	虹梁冢叉首	出組	墓股	—	海老虹梁	虹梁状頭貫	—	三斗	撥束	拳鼻	○
飯山八幡宮	安永6年(1777)	前大津	三間社流造	茅葺	虹梁冢叉首	三斗,舟肘木	墓股	○	海老虹梁	—	—	三斗	—	—	—

表-1-2 山口県の神社本殿の意匠的特徴

神社名	年代	藩又は 宰判	規模・様式	屋根	身捨				向拜					
					妻飾	組物	中備	木鼻	繫梁	向拜虹梁	組物	中備	木鼻	手挟
八坂神社	安永8年(1779)	前大津	一間社流造 正面千鳥破 風付	鉄板葺	虹梁家又首	出三斗,連三斗	—	○	海老虹梁	—	出三斗	×	—	—
恵美須神社	天明6年(1786)	奥阿武	一間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束	出三斗	墓股	—	海老虹梁	茨垂木状頭貫	出三斗	彫刻	—	—
中領八幡宮	天明7年(1787)	小郡	三間社流造	銅板葺	虹梁家又首	三斗	墓股	○	—	直材	—	墓股	—	—
三隅神社	天明7年(1787)	前大津	三間社流見 世棚造	鉄板葺	虹梁家又首	出三斗,舟肘木	墓股	—	海老虹梁	虹梁状頭貫	出三斗	×	○	—
船戸神社	天明8年(1788)	当島	一間社流造	鉄板葺	虹梁家又首	出三斗	墓股	○	海老虹梁	直材	出三斗	墓股	象鼻	×
徳佐八幡宮	天明8年(1788)	奥阿武	三間社流造	鉄板葺	虹梁家又首	三斗,連三斗	墓股	—	海老虹梁	虹梁状頭貫	出三斗,連三斗	墓股	○	○
吉部八幡宮	寛政9年(1797)	奥阿武	三間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束	出三斗	墓股	○	海老虹梁	虹梁状頭貫	出三斗,出組	墓股	—	○
高佐八幡宮	寛政10年(1798)	奥阿武	三間社流造	椀瓦葺	家又首	三斗	墓股	○	虹梁	頭貫	出三斗,連三斗	×	○	○
上野山八幡宮	寛政12年(1800)	当島	三間社流造	椀瓦葺	虹梁家又首	三斗	墓股	○	海老虹梁	虹梁状頭貫	出三斗	墓股	—	○
阿内神社	18世紀中	清末領	三間社流造	茅葺形鉄板葺	二重虹梁太 瓶束	出組,出三斗	墓股	○	海老虹梁	—	—	—	○	×
大歳神社	18世紀中	舟木	一間社流造	茅葺	虹梁墓股	連三斗	墓股	—	海老虹梁	—	連三斗	墓股	—	—
嘉川八幡宮	18世紀中	小郡	三間社流造	鉄板葺	—	出組	墓股	○	虹梁	直材	出三斗	墓股	—	×
長野八幡宮	18世紀中	山口	三間社流造	茅葺形鉄板葺	虹梁大瓶束	出組	墓股	○	—	—	—	—	—	—
朝田神社	18世紀中	山口	三間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束	出組	墓股	○	虹梁	—	三斗	—	—	×
剣霊神社	18世紀中	奥山代	一間社流造	銅板葺	大瓶束	連三斗	墓股	○	海老虹梁	—	連三斗	墓股	○	—
殿島神社	18世紀中	小郡	三間社流造	茅葺	虹梁大瓶束	出組	墓股	○	—	—	—	—	—	—
熊野神社	18世紀中	小郡	三間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束	出組	墓股	○	虹梁	虹梁状頭貫	出三斗	墓股	猿鼻	×
生雲八幡宮	18世紀中	奥阿武	三間社流造	銅板葺	虹梁家又首	三斗	墓股	—	海老虹梁	直材	出三斗,連三斗	墓股	○	×
代田八幡宮	18世紀末	岩国領	三間社流造	檜皮葺	虹梁家又首	平三斗,連三斗	—	○	直材	直材	出三斗	墓股	○	○
多賀神社	18世紀末	前山代	一間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束	出三斗	墓股	○	—	—	—	—	—	—
丸山八幡宮	18世紀末	奥阿武	三間社流造	銅板葺	虹梁笈形付 大瓶束	平三斗,連三斗	墓股	○	海老虹梁	頭貫	出三斗	墓股	象鼻	○
円政寺金毘羅社	19世紀初	当島	一間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束	連三斗,出三斗	墓股	—	—	—	—	—	—	—
上嶺八幡宮	19世紀初	美祢	桁行三間 梁間三間 入母屋造	銅板葺	虹梁笈形付 大瓶束	出組,平三斗	墓股	○	×	×	×	×	×	×
須賀神社	19世紀初	奥阿武	一間社流造	椀瓦葺	虹梁墓股	出三斗	墓股	○	海老虹梁	虹梁状頭貫	出三斗	墓股	—	—
殿島神社	19世紀初	奥阿武	一間社流造	鉄板葺	虹梁墓股	出三斗	墓股	—	海老虹梁	頭貫	出三斗	墓股	○	—
大元神社	文化元年(1804)	奥阿武	一間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束	出三斗	墓股	—	—	直材	出三斗	墓股	○	○
貴船神社	文化8年(1811)	当島	一間社流造	鉄板葺	虹梁彫刻板	出三斗	墓股	—	海老虹梁	頭貫	出三斗	墓股	○	—
野戸呂八幡宮	文化13年(1816)	当島	一間社流造	鉄板葺	虹梁墓股	出三斗	墓股	○	虹梁	虹梁状頭貫	出三斗	墓股	○	×
細野神社	文化13年(1816)	山口	三間社流造	茅葺	虹梁家又首	連三斗,出三斗	墓股	○	虹梁	頭貫	平三斗,連三斗	墓股	○	×
齋八幡宮	文政2年(1819)	豊井	桁行三間 梁間三間 入母屋造	茅葺形銅板葺	虹梁大瓶束	三手先斗拱	×	○	×	×	×	×	×	×
日尾山八幡宮	文政6年(1823)	当島	三間社流造	椀瓦葺	虹梁彫刻板	三斗	墓股	○	海老虹梁	虹梁状頭貫	出三斗	墓股	—	○
武氏八幡宮	文政10年(1827)	奥阿武	三間社流造	椀瓦葺	虹梁笈形付 大瓶束	大斗・肘木	×	○	海老虹梁	虹梁状頭貫	出三斗	墓股	—	○
殿島神社	文政12年(1829)	奥阿武	一間社流造	銅板葺	虹梁彫刻板	出組	墓股 出組	○	海老虹梁	直材	斗拱	墓股	○	×
伊上八幡宮	天保5年(1834)	先大津	一間社流造 背面三間	銅板葺	虹梁大瓶束	三斗,連三斗	×	○	海老虹梁	虹梁状頭貫	連三斗	墓股	○	—
金石八幡宮	天保5年(1834)	当島	三間社流造	銅板葺	虹梁・束	連三斗,出三斗	墓股	○	×	頭貫	三斗	墓股	○	○
菅原神社	天保6年(1835)	徳山	桁行三間 梁間三間 入母屋造	鉄板葺	虹梁大瓶束	出組	墓股 出組	○	×	×	×	×	×	×
神功皇后神社	天保12年(1841)	吉田	三間社流造	銅板葺	二重虹梁墓 股	出組	墓股	○	海老虹梁	直材	三斗	墓股	○	—
俵山八幡宮	嘉永元年(1848)	前大津	桁行三間 梁間三間 入母屋造	鉄板葺	虹梁大瓶束	出組	—	○	×	×	×	×	×	×
日吉神社	嘉永6年(1853)	先大津	三間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束	出組	×	○	海老虹梁	虹梁状頭貫	出組,連三斗	×	○	—
三島神社	嘉永7年(1854)	前山代	三間社流造	銅板葺	虹梁家又首	三斗	撥束 墓股	○	—	虹梁	—	—	—	—
宇佐八幡宮	万延元年(1860)	奥山代	三間社流造	鉄板葺	虹梁大瓶束 (又首榑付)	連三斗,出三斗	墓股	○	虹梁	虹梁状頭貫	連三斗	—	獅子	—
鶴嶺八幡宮	元治元年(1864)	徳山	三間社流造	銅板葺	二重虹梁彫 物	三斗,出組	墓股	○	海老虹梁	直材	斗拱	墓股	○	○
福田八幡宮	19世紀中	奥阿武	三間社流造	柿葺	虹梁家又首	出組	斗束 墓股	○	海老虹梁	虹梁状頭貫	三斗	墓股	○	—
日吉神社	元禄10年(1970)	小郡	三間社流造	茅葺	家又首	三斗	—	○	直材	直材	三斗	墓股	—	×

※この表は、国指定文化財データベースと『山口県の近世社寺建築』をもとに作成した。

※資料から判別ができないものは「—」とした。

※「妻飾」欄に「家又首」または「大瓶束」とだけ記載したものは梁が虹梁形と判別できなかったものである。

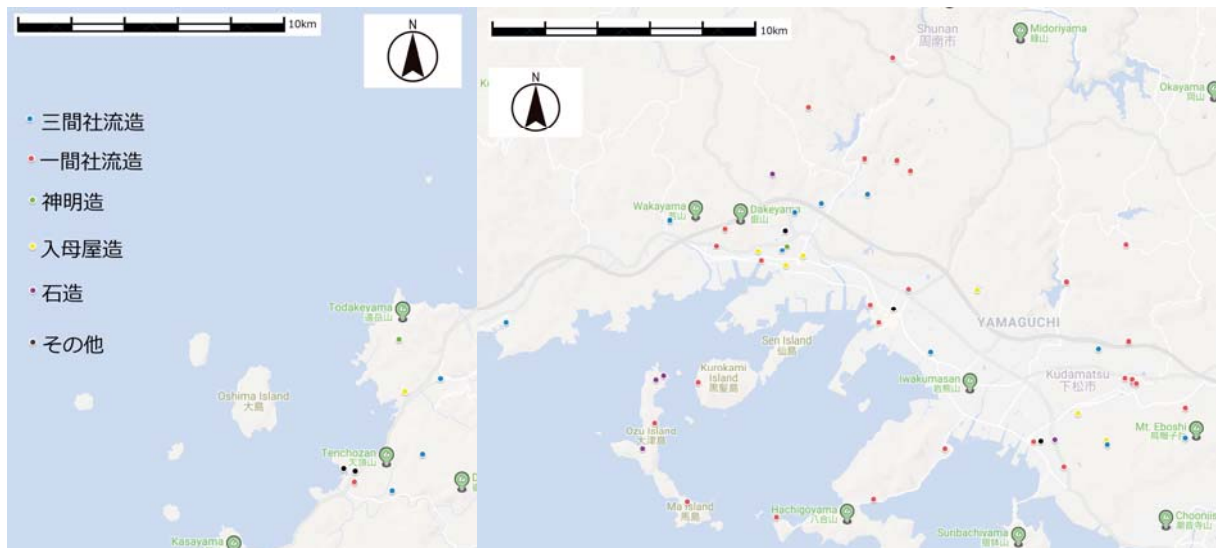


図-2 旧徳山藩神社本殿様式別分布図¹²⁾

雲神社（写真-2）のように大瓶束に又首棹をつける形式のものも含まれる。又首棹付の大瓶束を用いる神社5棟のうち4棟は18世紀のものである。また、妻飾に墓股を用いる神社は虹梁を二重にするものも含めて5棟あり、いずれも19世紀以降のものである。同じく、虹梁を二重にするものも含め、妻飾に彫物板を用いる神社4棟も19世紀以降のものであり、これらの神社はいずれも日本海側の奥阿武宰判周辺に立地している。

⑤ 身捨と向拝の繋ぎ材

身捨と向拝の繋ぎ材に海老虹梁を用いる神社は43棟、繋虹梁を用いる神社は17棟である。海老虹梁を用いる神社本殿の棟数に対する繋虹梁を用いる神社本殿の棟数は39.5%である。この2つに時代的な偏りはあまりなく、身捨と向拝の繋ぎ材は17世紀以降、海老虹梁と繋虹梁が混在している。

⑥ まとめ

上記から『山口県の近世社寺建築』から見る山口県の神社本殿の特徴について、次のようにまとめることができる。

本殿様式に関して、入母屋造は19世紀以降に多く見られる。斗拱は三斗組が主流であるが、18世紀以降には二手先や三手先の斗拱が現れる。妻飾に関して、18世紀以前は又首、18世紀以降は大瓶束、19世紀以降には墓股や彫物板を用いる神社が見られる。この3点から、山口県の神社本殿は時代が下るにつれて装飾的になってゆくといえる。そのほか、一間社流造は18世紀以降に多く見られること、流造風の切妻造が見られること、中備には半数以上の神社本殿で墓股が見られることが明らかとなった。

4.2 旧徳山藩の神社本殿の意匠の変化

実測調査対象の社殿棟数は63棟である。表-2は旧徳山藩神社本殿を年代順に並べたものである。図-2に実地調査対象の神社本殿の造りと所在地を示す。年代が半明しているものは、18世紀以降のものが大半である。

① 本殿様式

本殿様式は流造が最も多く42棟である。このうち一間社のものは26棟（61.9%）である。『山口県の近世社寺建築』記載の一間社流造は18世紀以降に多く見られることと一致する。一方、大年神社（写真-3）や、河内神社（写真-4）のような切妻造や入母屋造の小規模で簡素な神社本殿も多く見られた。

また、石造本殿が5棟見られたが、この内、木原神社（写真-5）、厳島神社（写真-6）、天浦神社（写真-7）の3棟（60.0%）は、古くから黒御影石の産地として知られる大津島に位置している。また、四熊ヶ嶽神社（写真-8）も石造本殿であるが、このあたり一帯は角閃石黒雲母安山岩の地層でできており¹³⁾、本殿もこの黒御影石が材料である可能性が高いと思われる。ただし、木原神社の本殿は、奉安殿を第二次世界大戦後、移設してきたものであり¹⁴⁾、奉安殿が元々どこに建設されていたものなのかは現時点では不明であることから、大津島産の御影石が材料として使われている可能性は他の社殿と比べて低い。

『山口県の近世社寺建築』に記載のあった岩戸八幡宮のような流造風の切妻造は見られなかった。

② 身捨斗拱

身捨の斗拱には二俣神社（写真-9）のように三斗を用いる神社が多く17棟であった。次いで神上神社（写真-10）のように舟肘木を用いている神社が14棟であった。また、『山口県の近世社寺建築』にはほとんど登場しない

表-2-1 旧徳山藩の神社本殿の意匠的特徴

神社名	年代	村名	規模・様式	身捨				向拝						懸魚	取調書	明細帳
				妻飾	組物	中備	木鼻	繫梁	向拝虹梁	組物	中備	木鼻	手挟			
四熊嶽神社	天文14(1543)	四熊	石碑	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—		
氷見神社	承応2(1653)	須万	一間社流造	豕又首	出三斗	束	×	海老虹梁	—	連三斗	—	×	○	二重懸魚	○	○
琴平神社	享保5(1720)	河内	一間社流造	束	舟肘木	×	○	直材	繫梁状頭貫	出三斗	墓股	動物系	×	蔦懸魚		
鷹飛原八幡宮	享保9(1725)	矢地	三間社流造	二重虹梁笏形付大瓶束	出組	墓股	○	×	—	連三斗	—	動物系	○	三花懸魚	○	○
降松神社若宮	明和4(1767)	河内	入母屋造	×	三斗	墓股	○	×	×	×	×	×	×	なし	○	○
松尾八幡宮	明和7(1770)	生野屋	三間社流造	虹梁笏形付束	舟肘木	×	×	虹梁	—	出三斗	—	○	×	蔦懸魚	○	○
国津姫神社	安永2(1773)	富海	三間社流造	二重虹梁笏形付大瓶束	出組	墓股	○	×	—	出三斗	—	○	○	蔦懸魚	○	○
天浦神社	安永3(1774)	大津島	石碑	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	蔦懸魚		
夜川移神社	安永5(1775)	上	一間社流造	虹梁大瓶束	出三斗	墓股	動物系	海老虹梁	繫梁状頭貫	出三斗	墓股	拳鼻動物系	×	蔦懸魚		
二俣神社	天明2(1782)	大向	三間社流造	虹梁豕又首	平三斗連三斗	墓股	○	海老虹梁	—	連三斗	—	—	—	銅板の覆い	○	○
降松神社中宮	文化4(1789)	河内	三間社流造	二重虹梁笏形付大瓶束	出組 二手先	墓股	○	海老虹梁 繫梁状頭貫	繫梁状頭貫	出三斗	墓股	象鼻獅子鼻	×	蔦懸魚	○	○
三島神社	18世紀中	川曲	一間社流造 背面二間	豕又首	舟肘木	×	×	×	直材	出三斗	墓股	○	×	蔦懸魚		
客神社	18世紀末	川曲	切妻造 向拝庇付	束	×	×	×	×	直材	×	—	×	×	なし		
祐綏神社	文化8(1811)	徳山	一間社流造	虹梁豕又首	舟肘木	×	×	直材	—	出三斗	—	○	×	蔦懸魚		
三島神社	文化10(1813)	大向	三間社流造	虹梁豕又首	平三斗連三斗	墓股	動物系	直材	—	連三斗	—	動物系	×	蔦懸魚		
菅原神社	天保6(1835)	奈古	入母屋造	虹梁大瓶束	出組 出三斗	○	×	×	×	×	×	×	×	二重懸魚	○	○
伊勢神社	天保	富田	入母屋造	×	×	×	×	×	繫梁状頭貫	×	×	○	×	なし		
荒人神社	安政2(1855)	富田	入母屋造	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	なし		
八幡宮	万延元(1860)	須万	三間社流造	虹梁豕又首	平三斗連三斗	墓股	○	海老虹梁	—	連三斗	—	○	×	蔦懸魚		
居守神社	明治9(1876)	大島	一間社流造	虹梁笏形付大瓶束	連三斗	墓股	動物系植物系	海老虹梁	—	連三斗	—	○	×	蔦懸魚		○
山崎八幡宮	明治9(1876)	富田	三間社流造	二重梁束	舟肘木	×	×	直材	直材	舟肘木	×	×	×	蔦懸魚	○	○
大歳神社	大正	山田	流造	束	—	—	—	—	—	—	—	—	—	蔦懸魚		○
兎玉神社	大正2(1923)	徳山	切妻造	豕又首	×	×	×	×	×	×	×	×	×	なし		
河内神社	昭和2(1927)	譲羽	入母屋造	×	×	×	×	×	曲材	×	×	×	×	なし		
大島神社	昭和2(1928)	大島	一間社流造	虹梁笏形付大瓶束	出三斗	墓股	動物系	直材 繫梁状頭貫	—	出三斗	—	動物系	×	蔦懸魚		
八坂神社	昭和7(1932)	富田	一間社流造	虹梁笏形付大瓶束	舟肘木	×	○	虹梁	繫梁状頭貫	出三斗	墓股	○	×	なし		
遠石八幡宮	昭和14(1939)	遠石	三間社流造	虹梁笏形付大瓶束	三斗	×	植物	直材	—	舟肘木	—	×	×	猪目懸魚	○	○
辰尾神社	昭和15(1940)	福川	一間社流造 背面二間	虹梁豕又首	舟肘木	×	○	虹梁	—	出三斗	—	○	×	猪目懸魚		
倉姫稻荷神社	昭和17(1942)	徳山	一間社流造	虹梁笏形付束	出三斗	墓股	○	海老虹梁	繫梁状頭貫	出三斗	墓股	○	○	結綿懸魚		
熊野神社	昭和20～	徳山	一間社流造	豕又首	舟肘木	×	×	×	×	舟肘木	×	×	×	猪目懸魚	○	○
由加神社	昭和25(1950)	河内	一間社流造	笏形付束	出三斗	墓股	○	海老虹梁	—	出三斗	—	動物系	×	蔦懸魚		
温見神社	昭和29(1954)	温見	一間社流造 背面二間	豕又首	×	×	×	×	直材	×	×	×	×	蔦懸魚		
荒人神社	昭和44(1969)	富田	切妻造	束	舟肘木	×	×	×	×	×	×	×	×	蔦懸魚		
富田護国神社	昭和46(1971)	富田	神明造	束	×	×	×	×	×	×	×	×	×	なし		
神上神社	昭和52(1977)	四熊	一間社流造	豕又首	舟肘木	×	×	直材	直材	舟肘木	×	×	×	猪目懸魚		
神上神社	昭和53(1978)	下上	三間社流造	豕又首	舟肘木	×	×	直材	直材	舟肘木	×	×	×	蔦懸魚	○	○
高嶺神社	昭和12(1987)	奈古	神明造	豕又首	×	×	×	×	×	×	×	×	×	なし		
八幡宮	19世紀中	奈古	三間社流造	二重虹梁彫刻板	三斗 出組	墓股	○	海老虹梁	—	出三斗	—	○	○	三花懸魚	○	○
高良神社	平成17(2005)	河内	一間社流造	束	×	×	○	直材	繫梁状頭貫	出三斗	墓股	狹鼻	×	蔦懸魚		
降松神社獄ノ宮	—	来巻	三間社流造	束	舟肘木	舟肘木	×	×	直材	—	—	×	×	蔦懸魚		
降松神社下ノ宮	—	来巻	流造(RC)	束	×	×	×	×	直材	×	×	×	×	蔦懸魚		
降松神社上宮	—	河内	入母屋造	×	×	×	×	×	繫梁状頭貫	×	×	×	×	蔦懸魚	○	○
恵美須神社	—	河内	一間社流造	束	出三斗	×	○	海老虹梁	繫梁状頭貫	出三斗	墓股	○	×	細長い懸魚		
八坂神社	—	豊井	石造	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—		
恵美須神社	—	河内	一間社流造	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
恵美須神社	—	豊井	一間社流造	虹梁笏形付大瓶束	連三斗	墓股	○	直材	繫梁状頭貫	連三斗	墓股	○	○	蔦懸魚		
琴平神社	—	河内	切妻造 (RC)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	なし		
河内神社	—	瀬戸	一間社流造	虹梁笏形付大瓶束	連三斗	墓股	○	海老虹梁	繫梁状頭貫	連三斗	墓股	○	×	蔦懸魚		○

表-2-2 旧徳山藩の神社本殿の意匠的特徴

神社名	年代	村名	規模・様式	身捨				向拜				懸魚	取調書	明細帳		
				妻飾	組物	中備	木鼻	繫梁	向拜虹梁	組物	中備				木鼻	手扶
貴布祢神社	—	給島	一間社流造	虹梁笈形付大瓶束	出三斗	×	植物	海老虹梁	繫梁状頭貫	出三斗	藁股	植物	×	簡懸魚		○
日吉神社	—	上	三間社流造	束	舟肘木	×	×	—	—	—	—	—	—	簡懸魚		
上野八幡宮	—	下上	三間社流造	豕叉首	舟肘木	×	×	×	×	舟肘木	×	×	×	簡懸魚	○	○
木原神社	—	大津島	石造	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	懸魚状の彫刻		
巖島神社	—	大津島	石碑	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	—		
狩尾神社	—	大津島	一間社流造	虹梁笈形付大瓶束	出三斗	藁股	○	海老虹梁	—	—	—	—	×	簡懸魚		
葛原神社	—	大津島	一間社流造	虹梁笈形付大瓶束	出組	藁股	○	虹梁	—	出三斗	—	動物系	×	簡懸魚		
河内神社	—	福川	切妻造 向拜庇付	×	—	—	×	—	—	—	×	×	—	なし		
荒人神社	—	富田	入母屋造	×	×	×	×	×	繫梁状頭貫	大斗舟肘木	×	○	×	簡懸魚		
巖島神社	—	黒髪島	一間社流造	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
菅原神社	—	大井	流造	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	簡懸魚		
八幡宮	—	大井	流造	—	三斗	×	—	—	—	—	—	—	—	簡懸魚	○	○
荒人神社	—	大井	流造	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	簡懸魚		
大年神社	—	大井	切妻造	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	なし		
恵美須神社	—	大井	切妻造 向拜庇付	束	×	×	×	×	×	×	×	×	×	なし		

※この表は旧徳山藩内の現地調査をもとに作成した。

屋などで装飾部材の種類、有無が分からなかったものは—とした。

は『山口県神社誌』、『山口県の近世社寺建築』、現地での聞き取りをもとに作成した。

※覆

※年代



写真-3 大年神社
大井，年代不明



写真-4 河内神社
譲羽，昭和2(1927)



写真-5 木原神社
大津島，第二次世界大戦後



写真-6 巖島神社
大津島，年代不明



写真-7 天浦神社
大津島，安永3(1774)



写真-8 四熊ヶ嶽神社
四熊，天文14(1543)



写真-9 二俣神社
大向，天明2(1782)



写真-10 神上神社
下上，昭和53(1978)



写真-11 国津姫神社
背面中央中備
富海，安永2(1773)



写真-12 国津姫神社
背面両脇中備
富海，安永2(1773)



写真-13 居守神社
右側妻中備
大島，明治9(1876)



写真-14 居守神社
背面中備
大島，明治9(1876)



写真-15 居守神社
左側妻中備
大島, 明治9(1876)



写真-16 鷹飛原八幡宮
中備1
矢地, 享保9(1725)



写真-17 鷹飛原八幡宮
中備2
矢地, 享保9(1725)



写真-18 鷹飛原八幡宮
中備3
矢地, 享保9(1725)



写真-19 鷹飛原八幡宮
中備4
矢地, 享保9(1725)



写真-20 降松神社中宮
中備1
河内, 文化4(1789)



写真-21 降松神社中宮
中備2
河内, 文化4(1789)



写真-22 降松神社中宮
中備3
河内, 文化4(1789)



写真-23 降松神社中宮
中備4
河内, 文化4(1789)



写真-24 降松神社中宮
中備5
河内, 文化4(1789)



写真-25 降松神社中宮
中備6
河内, 文化4(1789)



写真-26 降松神社中宮
中備7
河内, 文化4(1789)



写真-27 降松神社中宮
中備8
河内, 文化4(1789)



写真-28 降松神社中宮
中備9
河内, 文化4(1789)



写真-29 降松神社中宮
中備10
河内, 文化4(1789)



写真-30 降松神社中宮
中備11
河内, 文化4(1789)



写真-31 降松神社中宮
中備12
河内, 文化4(1789)



写真-32 葛原神社
大津島, 年代不明



写真-33 狩尾神社
大津島, 年代不明



写真-34 三島神社
川曲, 18世紀中



写真-35 鶴ヶ峰八幡宮
名古, 19世紀中



写真-36 貴船神社
杓島, 年代不明



写真-37 松尾八幡宮
生野屋, 明和7(1770)



写真-38 降松神社中宮
河内, 文化4(1789)



写真-39 大島神社
大島, 昭和2(1928)



写真-40 木原神社
大津島,
第二次世界大戦後

舟肘木が旧徳山藩領地内では多数見られた。

③ 身捨中備

中備に装飾部材を用いない神社は38棟(60.3%)と半数以上である。中備に装飾を用いる場合は墓股を用いる場合が多いが、『山口県の近世社寺建築』でも調査された国津姫神社は身捨背面の中備が中央に墓股(写真-11)、両脇に間斗束(写真-12)を用いている。

中備には植物をモチーフとした彫刻が施されているものが多く、菊、桐、牡丹、松、竹、梅、桜の彫刻が見られた。居守神社では本殿正面から見て右側の妻に松(写真-13)、背面に竹(写真-14)、左側の妻に梅(写真-15)の彫刻が施されていた。中備の彫刻が特に派手な神社は鷹飛原八幡宮(写真-16~19)、降松神社中宮(写真-20~31)の2棟で、他の神社では見られなかった動物や幻獣、人物をモチーフとした彫刻が見られた。また、大津島には前述の石造本殿の3社に加えて葛原神社(写真-32)と狩尾神社(写真-33)2棟の間社流造本殿の神社があり、中備に三つの亀甲を組み合わせた彫刻が施されている。神紋の三つ盛り亀甲に花菱を彫刻したものと思われる。また、笈形や出組枝輪を覆う彫刻には波のモチーフが多用されている。祭神は広島の大島神社同様、航海の安全を祈願する田心姫命、湍津姫命、市杵島姫命の宗像三女神である。島ならではの、海と密接な関わりが伺える。

④ 妻飾

妻飾に冢又首を用いる神社は14棟あり、このうち9棟(64.3%)は三島神社(写真-34)のように又首梁を虹梁形とせず直材を用いている。また、梁が虹梁形となる

神社は23棟あり、そのうち虹梁を二重にするものは5棟(21.7%)である。『山口県の近世社寺建築』でも調

査されていた鶴ヶ峰八幡宮(写真-35)では妻飾が二重虹梁彫物板である。このほかに妻飾に彫物板を用いる神社は見られなかった。また、『山口県の近世社寺建築』に記載のある、又首棹付の大瓶束¹⁵⁾は徳山藩の領地内では見られなかった。

⑤ 身捨と向拝の繋ぎ材

身捨と向拝の繋ぎ材には、貴船神社(写真-36)のように海老虹梁を用いる神社12棟と松尾八幡宮(写真-37)のように繋梁を用いる神社4棟が混在している。海老虹梁を用いる神社本殿の棟数に対する繋虹梁を用いる神社本殿の棟数割合は33.3%であり、『山口県の近世社寺建築』に記載されている神社本殿の割合とほぼ一致する。このほか、降松神社中宮(写真-38)では海老虹梁の下に繋梁状の頭貫を、大島神社(写真-39)では繋虹梁の位置に直材を用い、その下に繋梁状の頭貫を用いていた。『山口県の近世社寺建築』には見られない例である。

⑥ 懸魚

懸魚は藁懸魚を用いる神社が最も多く33棟であった。大津島の木原神社(写真-40)は石造の身捨に懸魚状の彫刻を施しているが、この社殿は、前述の通り奉安殿を第二次世界大戦後、移設してきたものである。奉安殿の彫刻も一般神社と同様の彫刻装飾が施されていた例を示すものとして記録しておくべきものとする。

⑦ まとめ

上記から旧徳山藩の神社本殿の特徴について、次のようにまとめることができる。18世紀、19世紀の神社本殿は墓股や枝輪に彫刻が多用され、装飾的である。旧徳山藩の神社本殿は斗拱に舟肘木が用いられる例、中備に装飾部材が見られない例、梁が虹梁形とならない例が多く、素朴な装飾であることが明らかとなった。本殿は一間社流造が多く、石造本殿は一部地域に集中している。また、身捨と向拝の繋ぎ材を二重にしている神社本殿が見られた。

5. 結論

本稿では『山口県の近世社寺建築』から見る山口県の神社本殿の特徴と、旧徳山藩の神社本殿の特徴を整理し比較した結果、以下が明らかになった。

① 最多の形式は一間社流造

旧徳山藩下の神社本殿に一間社流造が多い傾向は、山口県下の江戸期の神社本殿の状況に一致している。

② 18世紀の本殿がより装飾的

旧徳山藩の18世紀の神社本殿は臺股や支輪に彫刻が多用され、その後の時代のものに比べ、より装飾的であることもわかった。この傾向は県内の他の地域についても当てはまる。

③ 身舎と向拝の繋ぎ材の二重化の例

相違点として、旧徳山藩の神社本殿には身舎と向拝の繋ぎ材を二重にしている例がある。

④ 流造の傾向の相違

県内全体で見た場合に指摘されていた流造風の切妻造は、旧徳山藩内では見られない。

旧徳山藩内の本殿建築は、同時期の県内の傾向と比較すると、共通点が指摘できる一方、相違点として挙げられる身舎と向拝の繋ぎ材が二重化される点は、当地域内の特徴の一つと考えられる。また、流造にこだわって建設していたと言えよう。

今後の展望として、本稿と同様の調査を他地域でも行うことにより、山口県内の他地域の神社の特徴が明らかになることが望まれる。

謝辞

本研究に取り組むにあたり、各神社の宮司様、氏子総代の方、山口県神社庁の方、調査に同行してくれた学生諸氏を始め、大変多くの方にご協力を頂きました。ここに記して心からの謝意を表します。

参考文献

- 1) 山口県教育委員会, “山口県の近世社寺建築-近世社寺建築緊急調査報告書”, pp.1-39, 1980 03, 山口県教育委員会.
- 2) 徳山市史編纂委員会編, “徳山市史-上巻”, pp.307-593, 1984 01 31, 徳山市.
- 3) 文化庁, “国指定文化財データベース”, <https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html>, 1997-2017, (参照 2018 01 10) .
- 4) 山口県教育委員会, “前掲書”, 1980 03
- 5) 山口県神社誌編纂委員会編, “山口県神社誌”, pp.344-1055, 1998 03 25, 山口県神社庁.

- 6) 近藤豊, “古建築の細部意匠”, pp.69-186, 1972, 大河出版.
- 7) 橋場信雄, “建築用語図解辞典”, pp.181-202, 1970 02 01, 理工学社.
- 8) 妻木靖延, “新訂-日本建築”, pp.59-83, pp.99-104, 2009 07 30, 学芸出版社.
- 9) Googlea マップ, 旧徳山藩神社地図, <https://www.google.com/maps/d/edit?hl=ja&mid=1bgx941Si6PGfDbbVDHYeUSv8jx2_HkVM&ll=34.11163162057689%2C131.8413028165039&z=11>, Google マップを活用して林(石丸)が作成, (参照 2018 01 10) .
- 10) 山口県教育委員会, “前掲書”, p.228
- 11) 山口県教育委員会, “前掲書”, pp.241-242
- 12) Google マップ, 近世社寺建築記載神社本殿, <<https://www.google.com/maps/d/edit?hl=ja&mid=1lF2g1KPjZW4eJ7vurRJ2ahLB5RmIMUOp&ll=34.229064668862904%2C131.55271255000002&z=10>>, Google マップを活用して林(石丸)が作成, (参照 2018 01 10) .
- 13) 山口県神社誌編纂委員会編, “前掲書”, p.408
- 14) 徳山市史編纂委員会, “前掲書”, p.15
- 15) 山口県教育委員会, “前掲書”, pp.23-24

(2020. 10. 20 受理)